

京都の家プロジェクト

～東日本大震災で被災された方々に、京都で再出発に向けた準備のための「家」を提供します～

京都の家プロジェクトとは？

主に京都市内にあるシェアハウス（※）で、被災された方の一時滞在を受け入れるとりくみです。
※「シェアハウス」については裏面をご覧ください。

これまでの活動

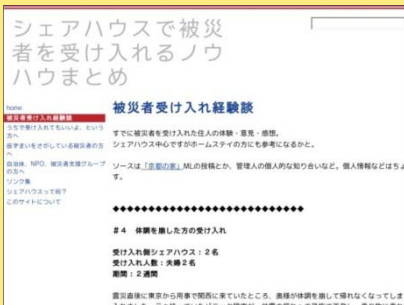
一時滞在の受け入れ斡旋

一連の災害がきっかけで京都に来られた方に、**シェアハウスの空き部屋や共有スペースを利用して一時滞在できる場所を提供**しています。公営住宅への入居までの準備期間など短期に限られますが、罹災証明の有無などは問わずあらゆるレベルで“被災”された方を対象にしています。

プロジェクトに協賛しているシェアハウスの受け入れ条件を取りまとめ、**受け入れ希望の方とのマッチング**をおこないます。受け入れ希望の方と受け入れ先の間立ち、受け入れにあたっての**ガイドライン**を提示して**トラブルを未然に防止**します。



京都の家ウェブサイト トップページ (URL は下記参照)



受け入れノウハウの蓄積・発信

プロジェクトで運用しているガイドラインはもちろん、実際に**受け入れをおこなった事例からノウハウを蓄積**し、他地域・他団体での受け入れの参考にしてもらうべく発信しています。

「受け入れノウハウ」はこちらのサイトで公開しています

<https://sites.google.com/site/share311/>

京都での生活サポート

プロジェクト経由で京都に来られた方はもちろん、公営住宅へ入居されるなど京都で一時的に生活を送られる方に向けて**生活に役立つ情報やイベントの案内を発信**するメーリングリストを運用しています。

京都市民としても**ふだんの生活の延長上でできること**を持ちよってサポートにあたることができます。

→仙台などから受け入れ中の方とシェアハウス住人、ご近所の方も交えて (2011年3月30日付京都新聞朝刊でご紹介いただいた際の写真です)



情報発信・連絡先

ウェブサイト <http://kyotonoie2011.wordpress.com/> Twitter : @kyotonoie
お問い合わせ・ご連絡は kyotonoie2011@gmail.com までお寄せください。



京都の家プロジェクトのこれまでとこれから

そもそも、シェアハウスとは？

京都の家プロジェクトで部屋を提供している「シェアハウス」は、ひとつの“世帯”ではない複数名が一軒家で共同生活を送っている家をモデルとしています。そのほか、シェアハウスの生活についてくわしい Q&A を「ノウハウまとめ」のサイトにて公開しています→<https://sites.google.com/site/share311/what>

なぜ、シェアハウスでの受け入れ？

シェアハウスではいわゆる“他人”どうしが一緒に生活を送っており、家族や血縁以外ともさまざまなものを共有しながらともに暮らすスタイルがすでに確立しているため、受け入れの土壌があります。また、生活用具等が揃っている点、その土地に通じたシェアハウス住人から生活のサポートを受けられる点も大きな強みです。

実際の受け入れ事例より

京都の家プロジェクトでは、震災直後～4月にのべ6件12名の方を京都市内のシェアハウスで受け入れました。

【事例①】シェアハウスでの経験から、新しいつながりへ —仙台から一時避難で受け入れの方より（男女7名のシェアハウスに女性3名受け入れ）

<前略>（京都から仙台への）帰りのバスで、東京からボランティアに向かうという女性と知り合いました。被災地で介護の人手が足りない聞き、かけつける途中でした。その必要があれば私のところに泊まってもらつつもりで連絡先を交換しました。ガスが復旧していないからお風呂もないし、家の中はまだめちゃくちゃですが、眠る場所とあたたかいおふとんくらいは提供できると思うたので。これも、京都の家の活動に接し、Kさん（※受け入れシェアハウス運営者）はじめシェアハウスのみなさんと出会えたおかげです。こういうときにこんな不謹慎な言い方は許されないかも知れませんが、できるならばもうすこしH荘（※シェアハウス通称）でゆっくりして、みなさんとおしゃべりしたかったです。いろいろありがとうございました。仙台にお越しのさいは、ぜひうちに泊まってってください。

（受け入れになった方のおひとりが仙台へ帰宅後、プロジェクト主宰者へのメールより；表記等一部改変）



↑シェアハウス住人と受け入れの方が共同で開いた原発問題の勉強会の様子。シェアハウスの共有スペースにて

イベントレポートはこちら↓

<http://denkaihouse.exblog.jp/14546908/>

【事例②】これからのことをともに考えるきっかけに —シェアハウス住人より（女性3名のシェアハウスに女性1名受け入れ）

Dハウス（シェアハウス名称）で受け入れを始めてから早一週間が経ちました。Dハウスでは住人が昼間仕事に出て夜遅めに帰宅するという日常です。避難の方はそんな中のような一日だったのか聞くべく、夜寝る前には毎日一緒にお茶を飲んでいました。<中略>今回たまたま自分たちの日常の中に避難の方が来られたおかげで、自分自身、また自分の身内や友人も今回の災害にぐっと近づきました。それだけでもとっても大きな影響を与えてもらったので、せっかくだからもっと今後の社会的な心配事を共有できてもいいなと思います。

これを機に、少しでもよりよい社会になるように今どんな問題・課題があるかをともに考える機会を気軽に作りたいです。一時受け入れとは別の、長い長い問題への一歩を一緒に歩むきっかけになれば素晴らしいなと思いました。

（プロジェクトの運営メーリングリストへの投稿より；表記など一部改変）

京都の家プロジェクト 第2弾に向けて

これまで行ってきた斡旋と受け入れのノウハウをもとに、シェアハウスだけでなくさまざまな「家」での受け入れの推進・サポートしていく予定です。いれものを用意するだけでなく、ひととの繋がりの中で受け入れを行っていく姿勢は変わりません。

京都にお住まいで、なんらかの形で被災された方の力になりたいという方はどうぞご連絡ください。

→kyotonoie2011@gmail.com